

## 会 議 録

1 附属機関等の会議の名称 令和3年度第3回丹波篠山市図書館協議会

2 開催日時 令和3年9月28日(火) 13:30～15:30  
(傍聴の受付時間 13:15～13:25)

3 開催場所 丹波篠山市立中央図書館 視聴覚ホール

4 会議に出席した者

(1)委 員 杉本克治、木村 研、向井祥隆、中西文枝、溝畑あけみ、  
西野裕子、長澤一正、(敬称略)

(2)事 務 局 館長 小畠理三、参事 中筋吉洋、係長 徳田実穂、  
司書 小土井月瀬

5 傍聴の人数 0人

6 会議の公開、非公開の別 公開

7 審議の概要

1. 開会

2. あいさつ

3. 報告事項

(1) アンケートの実施結果について

4. 協議事項

(1) 第2次丹波篠山市立図書館ビジョン骨子(Ⅱ)について

(2) 第2次丹波篠山市立図書館ビジョン原案検討について

### 【報告事項(1)事務局より説明】

(委 員) 利用者、市民アンケート回収数が275枚ということだが、少ない。また小、  
中学校のアンケートは実施しなかったのか。

(事務局) 前回協議会で実施予定だったが実施できなかった。アンケート対象とする  
学校の選定の再検討や外国人対象の設問等作成ができなかったこと、時期  
が夏休みに入ること、夏休み明けの運動会等の行事、事務的にアンケート  
様式等の準備が時間的に難しく実施できなかった。しかし、今回は実施でき  
なかったが、10年間の中で、当然見直しもしていく中で、今後こどもたちのご  
意見等も聞く機会を設けるために先生と協議させていただき実施、反映して

いきたい。利用いただけていない方の意見数が少ない結果となった。数は少ないが、ご回答いただいた貴重なご意見をビジョンに反映させていきたい。

(委員) 外国人の児童生徒の件も分かるが、加配で補助する先生がついていると思うので、横についてアンケートも実施できたのではないか。方法を考えれば、可能だったのではないか。一番本を読んでほしい小、中の世代の意見がないというのは残念だ。また全体的にアンケート回収数が少なく、信頼度がどうかと思う。10年に1度のアンケートではなく、5年毎にとるなどしてまめに市民の方のご意見を聞いてはどうか。

(委員) ボランティアアンケートの数が少ない。残念である。

(委員) 市民の声をビジョンに反映させるなら、郵便するなど幅広い方から意見もらったほうがよかったのではないか。市民の声を反映させるビジョンとしては苦しいのではないか。

(委員) アンケートをお願いする方向として、利用者や市民、ボランティアは図書館利用者としてのアンケート内容はビジョンに反映できるが、図書館に来られない方、どうしてこれられないのか、という意見がほしかった。各自治体を通して、無作為で10人、自治会長を通して意見をいただいたほうがビジョンに生かすべき意見があったかもしれない。司書の対応や施設整備のことではなく本来の図書館サービスについて何を求められているのかを知りたかった。今回のビジョン案は、アンケート結果は反映されているのか。

(事務局) 基本的には反映しているが、整理できていない部分は、反映できていないところもあるので、そこは反映する必要があると考えている。

(委員) アンケート集計段階で意見を反映させながらビジョン案を作成していったのか。アンケートと案は関係なく作成されている状態なのか。

(事務局) 基本はアンケート意見を反映した形になっているが、アンケート結果の集計が後になったため、先に案をし、アンケート結果もやはりそのような意見があったということもあるし、反映されていない部分もある。

(委員) タイムな時間での集計と案作成でありしかたない部分もあると思う。子どもたちの意見が反映されていないのが残念だが、今後加筆できるスケジュールなら、入れてはどうか。

(事務局) 今からアンケートをするとすると時間的に難しい。学校アンケートができないため利用者と市民向けアンケートの12歳以下の年齢を入れて意見を聞かせてもらい集計できればと考えた。

(委員) 骨子と案は11月でほぼ完成となるのか。スケジュールはどうか。

(事務局) 今回の協議会の骨子と案のご意見をいただき、それを反映し、次回の協議会でほぼまとまった素案として提示させていただき、可能であれば次回の協議会で完成させたい予定である。

- (委員) 学校アンケートを今から2、3校にとって反映させる時間的猶予はあるか。
- (委員) たとえばどこかの学校1クラス、「図書館に行ったことがあるか」など簡単な内容だけ聞いたらどうか。
- (委員) 先日、読書感想文審査会の際、各校の図書館担当者に図書館ビジョンの策定が進んでいることを話し、今後、協力いただく場合もある旨を伝えた。担当者に聞くことは可能である。アンケートの実施についてはスケジュールにもよるが相談できる。
- (委員) 小学校6年間で図書館見学はあるか。
- (委員) 3年生は来ている。幼稚園も来ることがある。
- (委員) それなら小学生は図書館を知っていることになる。知らないことはないと確認した。
- (委員) 中学生の意見を聞くなら5中学校対象でアンケート内容は簡略化した内容なら可能だと思う。
- (委員) アンケートの結果を見ると、地域によって利用が違う。利用の少ない地域の声も大事と思う。
- (委員) アンケートの回答が275はほぼ自治会数と同じ、各自治会に5部お願いするとこれの5倍集まる。
- (事務局) 回答の内訳は、中央図書館が127、市民センターが53、その他が95となっており、図書館以外は少ない。
- (委員) アンケートは毎年行っている図書館がある。スケジュール的なこともあり今回はこのアンケート結果とし、2、3年後に、たとえば利用の少ない地域を対象として重点的にアンケートを行うなど、ビジョンの見直しに生かすことはどうか。
- (事務局) 今回新たに企業向けアンケートを行った。アンケートを実施することにより図書館のPRにもつながった。アンケート実施については今後のビジョンの中で検討したい。
- (委員) 今後もアンケートを行うことは良いことと思う。ただ、今回、子どもの声を入れることは今後にもつながると思う。小中学校のアンケートを考えてはどうか。
- (委員) ビジョンを考えれば、今回は、利活用の充実の方向のアンケートという理解でどうか。もっと利用者を増やしたいということについては、次回、違ったアンケートを取り、その方向に力を入れることもできる。
- (委員) 企業アンケートが行われたので関連して言う。市外の例だが、ある病院で入院患者のために図書館から本を借りたところ、貸出期間が過ぎ図書館から返却催促があったが、利用者は短期間では読めないことから、図書館の本は利用し難く、独自に対応されたとのことである。丹波篠山には病院、施設があるのでこれらの施設への対応も考えられる。
- (委員) 過去の経験として、図書館が除籍する図書をもらい受け、病院に寄贈した。病院は各階に本を配置し患者さんに読まれている。このような活用もある。

(委員) 丹波篠山市の除籍状況はどうか。

(事務局) 現在の除籍図書は雑誌のみ。寄贈されて登録しなかった図書は配布する機会がある。

#### 【4. 協議事項 (1)、(2)事務局より説明】

(委員) ビジョン(案)では事業数が増加している。骨子(案)の中にも必要な事項が盛り込まれており理解できる。文章表現は柔らかい方がよい。前回、司書の数が少ないとの意見があった。今後を考えると司書が確保できないと難しいのではないか。

(事務局) 司書 10 名のところ 8 人。入れ替わりが激しく積み重ねができない。募集しても応募がない。業務に対する正当な評価がいる。若い司書の定着がない。これらの改善がいる。

(委員) 人数が少ないとそのような状況になる。予算もあるが、司書が定着できるようにすることが必要。

(事務局) 司書を募集しても応募されない。司書資格のない方を事務補助として採用している。

(委員) 今はAIの活用も出てきている。近い将来図書館も変わるのではないか。

(委員) 外から見ていても若い人が続いていない。安定しないことは、任用、給与等にも課題があるのではないか。

(委員) 骨子(案)1頁の「②情報通信技術を駆使したサービスの提供」の短期実践項目に「予約方法の再検討」があるが、これに在架のネット予約も検討できないか。

(委員) 文章中に「知的」との表現があるが、敷居を高めているように思える。「豊かな生活」に結びつくようなことばで考えられないか。

(委員) 「知的」は文部科学省が使っている。やわらかい表現ができないか。

(委員) このビジョン案は箇条書きであるが最終は前回のビジョンのような冊子になるのか。

(事務局) 予算の関係で、紙、PDF を基本に考えている。一部は冊子も考えている。

(委員) 他館の事例は公開されている。誰もが目にできることが必要。

(委員) わかりやすい表現になればよい。また、骨子(案)3頁の「③高齢者・障がい者サービスの充実」について、交通手段を持たない人を対象とした配送サービスがある。この配送サービスを検討できないか。

(委員) 地域資料に関し、河合先生以外にもこの地域出身、在住の方に関係する資料を収集することはどうか。地域資料の中に、歴史、文化だけでなく丹波篠山ゆかりの学者研究者に呼びかけ関係資料を収集することもできる。これらの方に丹波篠山にかかわってもらおう仕掛けができないかと思う。行動することで司書のモチベーションが高まることもある。

- (委員) 市民センター図書コーナーは新刊も入っており、少しずつ動きが出てきているとの評価もある。これを見ても仕掛けは大事と思う。
- (委員) 図書館へ来たら職員、司書から声をかけられるなど、さりげないことで雰囲気明るくなる。ワクワクすることがある。行動することで前向きに進む。
- (委員) 収集方針の見直しをされると思うが、その中で地域資料はどうするかなどを考えることが必要。中央図書館と市民センター図書コーナーの図書購入が同じ枠なら、市民センター図書コーナーの収集方針をしっかりと考える工夫が大事。収集方針と予算取りが大事。
- (事務局) 市民センター図書コーナーについては、利用者やボランティアからの意見を聞くなどにより、方向性を検討している。寄付もいただいている。この方針に基づき購入を進めたい。
- (委員) 市民センター図書コーナーの目標を明らかにし予算の確保をお願いしたい。利用者に期待感を与えてほしい。
- (委員) 骨子(案)2頁「④図書館と地域を結ぶサービス網の拡充」について、今後、高齢化がさらに進むと図書館へ行けない人も増えることが予想されるため、このことは大事になる。いま、配本所は本を受け取ることが主。長期実践項目で移動図書館が記載されている。移動図書館予算確保は難しいかもしれない。自治会との連携した取り組みなども位置付けたらどうか。
- (委員) 基本理念の案が示されているがいつ決まるのか。最初に図書館ビジョンの基本理念が決まり、それに基づきどう広げるかを位置づけるものと思う。基本理念をまず決めることが必要。
- (事務局) 事務局案を示している。これらをもとに施策の案を立てている。
- (委員) 身近な図書館という考えは大切と思う。あかちゃんからお年寄り、人生100年時代も大事。一案として「100年時代の生涯学習を支える身近な情報拠点」を考えた。
- (委員) 「100年時代」という言葉には抵抗がある。委員からも基本理念案を持ち寄り事務局案と合わせて検討すればどうか。
- (委員) 委員でも案を持ち寄り検討したい。
- (事務局) アクションプランの数はこの案では項目が76、現行は68で増えている。さらに見直し精査したい。
- (委員) 現在実施中の基本のサービスについてはビジョンからはずしてもよいと思う。新たな取り組みことを主に考えればどうか。
- (委員) 基本理念の検討方法については、委員からも基本理念案、意見を提出いただき、今回の事務局案とともに次回の協議会で検討することでいかがか。
- (委員全員) 異議なし。
- (委員) 図書館ビジョンの基本理念について、子どもたちの立場に立つとどのような考え方があると思われるか。

- (委員) 「本との出会い」の中で関心が高まる。「本との出会い」はキーワードではないか。
- (委員) 人それぞれ豊かさは違う。「知る」ということが大事で、図書館が居場所づくりにつながるのではないか。
- (委員) 図書館は学校図書館より圧倒的に本が多い。また、新聞や雑誌もある。大型書店にいくと図書館ぐらゐの本はあるが、お金がいる。図書館は無料で本の世界に入ることができる。そのことが図書館の大きな魅力。
- (事務局) 図書館ビジョン案については、図書館の将来像として4つの運営方針を示している。これらも加味して基本理念案について検討いただきたい。
- (委員) 5年ほど前からSDGsの目標を掲げた取り組みをしている。SDGsは国連が定めた17の課題と167の目標が掲げられている。気候変動の対応などがある。国連は、今後の10年を「行動の10年」としている。これは今回の図書館ビジョンの期間とほぼ重なる。図書館のサービスはSDGsとかかわるものもある。持続可能な社会のため、SDGsに関係する展示など取り組みに連携する図書館もある。丹波篠山市の図書館も連携した取り組みをお願いしたい。講演会、学校と連携した取り組みも考えられる。少し調べれば、図書館はこういう連携ができるという参考になる論文はあると思う。これからの時代を生きる今の子どもたちは、大きくなるころには今の食べ物がどうなるかもわからない、そうならないように考えましょうということを図書館もできるのではないか。図書館から情報発信ができるのではないか。

## 5. その他

### 【その他について、事務局から3点連絡】

#### ①創作活動室を市史編さん室として使用したいことについて

- (事務局) 現在進めている市史編さん事業に関し、市史編さんは令和10年度をめぐとしており、創作活動室を市史編さんに使用できないかと考えている。市史編さん専用でなく兼用でできないかとも考えている。委員の皆さんの意見をいただきたい。
- (委員) 20年位前に図書館建設基本計画の委員会で、地域資料を扱う郷土資料館の意見も出た。地域資料は課題であることは理解できる。中途半端に資料を置くということだけでなく根本的に考えなければならない。市史編さんだけでなく、資料管理を考えなければならない。地域資料の保存作業には創作活動室で大丈夫か。その部屋でよいかは疑問。また、基本計画でも創作活動の部屋と位置付けられており、創作活動のための利用がある。創作活動室の存在が利用者にとって重要。
- (委員) 初めて聞いて驚いている。ボランティアで創作活動室をよく利用している。

図書館ビジョンを策定する段階でその拠点をなくすることはどうか。兼用でどうかということでもないと思う。創作活動室出ないとできない活動もある。創作活動室が使えないと困るという声は強いと思う。大事な市史編さんは市を挙げて場所を考えるということが必要ではないか。

(委員) 以前に町史編さんに携わったことがある。その経験から言うと、市史編さん作業においては、何日も資料を広げて修復しながら作業を続けることがある。その場合施錠して帰る。資料の取り扱いは慎重に行う。先ほどの話では、ボランティア活動と兼用で行うとのことであるが、資料の管理などを考えると困難と思う。市史編さん作業は専用でないと無理。創作活動室がボランティア活動に必要なとの意見は理解できる。市史編さんは不特定が出入りしない管理ができる部屋が良い。創作活動室は創作活動に支障が出ることも考えられる。兼用は無理。

(委員) 皆さんの意見はもっともと思う。市史編さんの場所は他にないか。

(事務局) 他の施設も現地調査を行ったが、適当な部屋が見つからなかった。一つの考え方として創作活動室が候補となったことから本日意見を聞くこととした。

(委員) 市史編さんは他に場所を考えるほうが良いと思う。皆さんの意見を聞くと創作活動室を市史編さんに使うことは難しいと思う。

(委員) 10年は長い。図書館ビジョンが終わる期間使えないことになる。

(委員) 市史編さんは大事なことなので、資料館など次の時代につながるようしっかりと考えでいただきたい。

(事務局) 今日は、決定する場ではないので、貴重な意見を聞かせていただいた。また相談させていただきたい。

## ②次回の日程調整

### ○第4回図書館協議会

令和3年11月26日(金)13:30～ 中央図書館視聴覚ホール

## ③図書館ビジョン案等の意見について

本日の計画案、基本理念案について、検討いただき、別添の様式で、意見、基本理念等について提出いただきたい。次回協議会の資料としたい。

## 6. 閉会